

# 経 済 港 湾 委 員 会 記 録 (No.31)

1 日 時 令和6年11月7日(木)  
午前10時00分 開会  
午前10時46分 閉会

2 場 所 第3委員会室

## 3 出席委員(8人)

委 員 長	吉 田 幸 正	副 委 員 長	渡 辺 修 一
委 員	田 中 元	委 員	香 月 耕 治
委 員	渡 辺 徹	委 員	奥 村 直 樹
委 員	高 橋 都	委 員	本 田 一 郎

## 4 欠席委員(1人)

委 員 世 良 俊 明

## 5 出席説明員(0人)

## 6 事務局職員

委員会担当係長 松 永 知 子 書 記 西 嶋 真

## 7 付議事件及び会議結果

番号	付 議 事 件	会 議 結 果
1	地域経済の活性化とにぎわいづくりについて	所管事務調査報告書取りまとめのため、委員間での討議を行った。
2	港湾機能(洋上風力発電事業を含む)の強化について	
3	公営競技における一般財源及び地域への貢献について	

## 8 会議の経過

**○委員長（吉田幸正君）** 開会をいたします。

本日は、所管事務の調査を行います。

取りまとめに向けて委員間討議を行います。報告書に記載すべき取組や、執行部への具体的な意見、提案についての発言をお願いしたいと思います。

それでは初めに、地域経済の活性化とにぎわいづくりについてを議題といたします。

皆様の中から御意見、提案等はございませんか。よろしく申し上げます。これは今日は委員間討議でありますので、御自由に発言していただいてもいいという時間になっておりますので、高橋委員。

**○委員（高橋都君）** 地域未来投資促進法の活用について、意見といいたしめようか、農地転用ということもありまして、ある農業をされている方から御相談というか、危惧する部分がありました。それで、今後やっていくということなんですが、これはもう民間と農地の所有者との話になるかなと思うんですけども、行政としてのそこでの協力とか周知とか、そういったものも必要かなと思うんですけど、ただ、実際にその農家の方は有機農業をされているということもあって、不安の声があるわけですね。結局はそこに、自分は農地を守っていきたい、そこで有機農業をやりたいと思っているんですけども、もしもお隣が今回のような転用で農地を売却することになった場合、水の問題とか、あと日照権の問題とか、いろいろあるかなということがあるんですけども、だから、近隣農家への影響も考える必要があるんじゃないかなということを感じるので、十分考慮したような取組が今後必要じゃないかなと思いますね。行政として今後、それへの対応とか、そういった周知とか説明というのをもっと機会を増やすべきかなと感じました。

**○委員長（吉田幸正君）** なるほどですね。これは、我々が成田に視察に行ったときに勉強させてもらって、あそこは政令市じゃないので県の取組が非常に大きかったと思うんですけど、今、高橋委員が言われたように、たしか地域未来投資促進法は隣地の了解も得なければならないということだったと思いますので、真隣の場合は多分有効だと思うんですけど、隣の隣というか、近隣になると、多分、懸念される案件というのは出てくるのかなという気もいたしますね。ですから、ここで発言もあったと思うんですけど、同時に、北九州としては土地がないということで、地域未来投資促進法は進めていきたいという、こちらの話もあります。この農地は実は個々に使っていないとかがあるので、それが転用できないかみたいな議論はあったかと思うんですが、なかなか現場に聞くとハードルは非常に高いというふうな話を我々も視察で学びましたので、その意見の調整というのは難しい場面が出てくるんでしょうね。高橋委員。

**○委員（高橋都君）** 特に、水道というかな、水路とかそういった水の流れというのは、遮断されると、今度、変わってほかのところへ流れていくとか。やっぱりそういう農業をやられている方はずっと継続してその土地でやってきたということで、大きな問題かなというのは感じま

したね。

**○委員長（吉田幸正君）** 今日委員間討議でありますので、難しい話ですよ、こっちは推進しましょうと言って、こっちは丁寧にやりましょうという。

**○委員（高橋都君）** 必要な部分もありますからね。

**○委員長（吉田幸正君）** 悩みのところではありますけども、そこを解決していくのも我々の仕事でありますので、一つのいいテーマとしてお預かりさせていただきたいと思います。

ほかにございましたら。香月委員。

**○委員（香月耕治君）** 関連で。地域未来投資促進法の件で、今、話が出ましたが、水田の場合は水路というか水道、水利権の問題でなかなか難しいところがあるので、一部を造成して企業誘致ということは可能なんだけど、ずっと水道が続いているんで、その辺の備えというか準備をするか。今、話があって、農業というレベルで考えると、農業の事業というのは大変難しいと思っています。農業で生計を立てるということが大変難しい中、若い人も農業をしたいという人はかなりおります。でも、これ続きません。というのは、経済的に成り立たないということが背景にあるわけで、やっぱり農業者というか、農業をやりたいと希望する若者たちにどういう支援をしていけるかということが大変重要なことで、それは行政とかJAとか、そういう支援ができるような体制づくりと、これは、国の農政にも関わるでしょう。食料安保ということでは大事なことでありますが、一方、北九州で地域未来投資促進法というこの法律は、北九州の未来というか、私は北九州にとって最後のチャンスかなと思っています。

物流とか、それから先端産業、半導体等々、そういう事業者を誘致するというにしていますが、北九州でインター周辺にたくさんの予定地といいますか、活用できる土地がありますが、幹線道路はきちっとしているのが条件です。インターにつなぐ道路、これはインフラ整備ができていないということで、そういう条件を満たさないと物流が機能しない。私が今考えている物流というのは、5万坪レベルの物流基地を造って、そして、今、物流関係の課題はトラック運転手の不足ということです。2024年問題で960時間の残業ということもありますが、この問題で、トラック運転手が不足している上に960時間と限定されると、さらに収入が減ると。運転手の成り手がなくなることが今最大の課題で、この間から、運送会社がどういう対応しているかと、大手ですけど、聞いたら、やっぱりもう大型化。だから、この頃、高速道路を走ったら、トラックの大きいのがスピードを出してどんどん行き交うなというのは、ちょっと以前とは違うなと思っていますが、物流というレベルで考えたら、北九州は今までにないようなことができるか。トラック運転手の給料というか、これも考えて、将来、自動運転が可能になるような、自動運転が使えるような物流基地の造成といいますか、北九州ができるかどうかと。結局、自動運転で高速道路は3台でも5台でも1人の運転手でトラックを移動できますが、一旦下に下りるとアウトということで、私がちょっと考えているのは、高速道路から直接、物流基地に入る。そこも光ファイバーを引いて、そしてそこで荷下ろしして、地域の物流業者がま

たそこから各地に配送するという事を考えた場合に、トラック運転手が3台分の荷物を運ぶような給料をそれだけ確保できると。結構そこがね、やっぱり人が動くということはその辺まで考えないと事業として成り立たないんじゃないかなど。

北九州はいろんな形で産業的に後退したんだと、出遅れたということでは、そのぐらいの施設を造って、これは1か所だけでは機能しませんが、ほかにも造って、お互いに行ったり来たりしないといけないということで、先進的に北九州がそういう形でトラックドライバーの課題を解決して物流の量の確保をしていくということでは、北九州はインター周辺といいますか、今回指定されている八幡インター、それから小倉の南、東、それから門司インターは全て調整区域。そういう意味合いでの用地を確保できて、そしてトラック運転手が道路を活用できるようなということで、ぜひ、そういうレベルの施設を北九州から全国に発信するという形になれば、私は、国家戦略特区じゃないけど、国からの支援も上げると。そして、その周辺の物流基地まで行く間の道路の整備、インフラの整備、これがある意味、要だなと思いますね。

**○委員長（吉田幸正君）** 物流でいうと、我々はクロノゲートを羽田で見させてもらって、混載というんですかね、AメーカーとBメーカーのを重ねて持ってきて、そこでまた加工というか、高付加価値化というの、あれは非常に先進的でもありました。自動運転はまだでしたので、先進的に北九州が何をできるかでしょうし。ヤマト運輸さんが札幌便も今度、物流は拠点ができましたので、沖縄、東京、フェリーも、物流は価値が上がるので、次は人と向き合う提案をやっているのかなきゃいけないかもしれないですね。

何かほかに、奥村委員。

**○委員（奥村直樹君）** 今の地域未来投資促進法の話があったんですけど、これも視察にも行って本当に感じたのが、まず、調整していくのに民間の開発業者が主導でいくには限界があって、土地の取りまとめ、意見の取りまとめは行政が入っていかないと無理だと思っています。

一方で、さっき言った農業の、私も農業やっていますんで、感じるのは、例えば池の管理とかあるじゃないですか。池の管理なんかも議会でも何度もいろんな質問が出て、管理が大変、水の確保も難しくなって、安全も難しいと。そういうふうに農業がそもそも継続するのが厳しいという中であって、手放したい人もたくさんいる中で、例えば開発で5ヘクタール集めようってなった場合は、多分、このままいくと分断が生まれていくと思うんですね。多くの方は手放したい。何軒か反対したと。おまえのせいだみたいなことになってはいけないと思うので、その調整をしっかりと行政が間へ入っていかないといけないと思いますし、農業の継続が可能な地域は残していく整備をちゃんと両輪でやらないと、点々とやっている人たちが残っていくだけじゃ、いずれは駄目になっていくんですね。池の問題もそうですし、具体的に、力仕事があるんで、手伝いますよという人が例えばいらっちゃったとしても、トイレはないですよって言った時点で大体の方は、では、無理ですと。終わった後、手を洗う場所ってないですよ、川で洗いますよって言っても、では、無理ですねというのが現実なんで、継続できる整

備もやりながら、一方で開発をやっていくという両輪がないと、食料安全保障に関してもそうですけども、農業を残していくということを必要と考えていくのであれば、両輪でやっていくということを行政には考えてほしいなと思っています。

それと、景観ですね。開発も、ここからここまで開発していいよ、ここは農地で残すよというのを、全体の景観としても重要だと思うので、一定期間、ここでは農地の景観も残しながら開発はこっちでやるという線を、計画を立てていくときに、最初にしっかり考えていかないと、ここの人たちは5ヘクタールは大丈夫って言っているから取りあえずやりましょうってやって、ど真ん中に造ったりすると、景観とか、さっきの水の話もそうですけど、後々、取り返しがつかなくなるので、大きな計画もしっかり作りながら、そこは行政の役割だと思うので、めり張りをつけてやっていただきたいと私は思っています。

それともう一点、スタートアップの件もいろいろ議論がこの間、視察においてあったわけですけど、他都市の話聞いた中でも、ぜひ北九州市としてやっていただきたいのは、K P Iもそうですけど、効果測定と、スタートアップしたら終わりじゃなくて、その後どうなったかを追っていただきたい。この間、聞いたら福岡市もやっているという話もあったんですけども、それをぜひ北九州市はほかにも先んじて、ちゃんと後のフォローをしていくような体制を取っていただきたい。

あともう一点、浜松市に行ったときに感じたのが、これから奪い合い、まだまだ取り合いだっておっしゃっていたんですけど、北九州市にはそこをリードして、お互いに譲り合うことができるぐらいの、得意なところをとがらせて、北九州市はこの件だったら負けたくないものを持って、かつ、それが苦手な分野の話が来れば、ほかの都市に場合によっては譲っていくぐらいのことをやって、日本全体でスタートアップが伸びていくような動きをぜひやっていただきたいなと思っております。以上です。

**○委員長（吉田幸正君）** ありがとうございます。農業を守るのも当然、北九州としてはやっていかなきゃいけないことであります。ただ、それと同時に、先ほど出た話が並行してまいります、そういう意味では行政と議会の仕事というのは非常に大きいと思いますので、引き続きと思います。

スタートアップは、北九州というか、日本全体で相当頑張りましょうという雰囲気が出ていますけども、この間の報告にもありましたように、例えば資金面の補助という上限が100万円程度ということになると、多分そこよりも、北九州市が行政サポートとして行うネットワークづくりとか、その後のフォローみたいなことが大きくなってくる気がします。それで、言われたように、フォローがまだ追いついていないというところが見えていますので、引き続きフォローができるような体制づくりをやっていく必要が実際あるんだろうなと思います。それは、また改めて関係局と協議をするようにしましょう。

ほかにございましたら。

なければ、次は、港湾機能、洋上風力発電事業を含むの強化についてを議題といたします。  
それでは、意見がございましたらよろしく申し上げます。

1つ、港湾機能については、港が実はいっぱいになってきているというのが事実でありまして、それをどうするかというと、新たにやっていくしかないわけで、これは漁業との関係があるかも分かりませんが、ここはしっかり、仕事をする場を増やしていくという必要はあります。最大の課題は港湾機能のもう売る土地がないというのが非常に大きな課題でありますので、ここは中長期になるかも分かりませんが、しっかり向き合わないといけないと思っています。

それで、さっきの物流拠点の話ともつながるんですけど、これはまだ全体で大きな議論になっていないかも分からないんですけども、私自身としては、空港島にある70ヘクタールの北九州市側の土地が、将来は必ず産業用地になる土地と思っていますので、その70ヘクタールをしっかりと国と協議をして産業用地とする。そこを、70ヘクタールって相当大きな土地ですから、平らですし、地震もないし、水も通るといふことになると企業に売れると思いますし、通勤する人たちの足として軌道系アクセスが必ず必要になると思いますので、それは同時に空港とつながるんだらうと思います。鉄道が繋がると当然、コンテナも入りますから、陸海空にそれがつながるといふことで、僕自身は港湾機能の最大の強化策と、企業誘致は空港島の緑地の産業用地化に汗をかいていきたいと思っていますので、御提案を申し上げておきます。

また、洋上風力については、やっとなりが見えてきまして、世界の潮流も環境エネルギーについては注目が高いと思いますので、これは若松、地元の委員の方含めて、拠点化についてはいいPRを、やっぱり世界に向けてやらなければいけない時代だと思っていますので、よろしく願いしたいと思います。

私からは以上ですが、ほかに御意見ございましたらよろしく申し上げます。香月委員。

**○委員（香月耕治君）** 港湾ということで、以前も話しましたが、産業には動脈産業と静脈産業があるということで、北九州で活動できる動脈産業も当然ですが、静脈産業をいかに基幹産業として考えていくかということが大事だと思います。そのためにも、先般から議論していますが、産業廃棄物の処理場といいますか、埋立地、これがもういっぱいになりましたからということで、あと6年ぐらい使えないと。これは、やっぱり静脈産業を基幹産業とする都市としては本当に計画ができていないなと私は思っています。これができていないということになれば、周辺市町村に受け入れるところがあるかどうかとか、そういう考え方で北九州は動かないと、うちはできませんから民間にどうぞというか。それから、民間ではコストがちょっと高くなる。周辺市町村にそういう場所があるかどうかと。多分まだできていないと思いますけど、そういうところも、北九州が、北九州地域というか、その中核都市ということでは、私はそういう責任があると思っています。

それと、産業廃棄物の埋立地が今のところ使えていない。ガスが出たりとか、いろいろと問題点があって、今のところまだ使っていないんですね。だから、早く改良して、そして、簿

価も出ていますから、早期に使えるような形にしていけないといけない。それともう一つ、そういう状況で、北九州のみならず北九州地域の産業廃棄物を受け入れるということに関して、埋立地を造ってもすぐに使えないということが現実の話ですよ。それはやっぱり国に対して、これは補助金がほとんど出ていないということですから、すぐ使えて企業誘致ができれば、それは経済的にもいい土地になるわけですけど、使えないという条件の中では、やっぱり国の支援がないと。この間も、護岸が崩れたのでやり替えると、150億円ぐらいまたお金がかかりますよ。そういう大きな負担をしながら土地が使えないということに関して、私は国に対して強く補助金を要望すべきだと思います。

**○委員長（吉田幸正君）** 本田委員。

**○委員（本田一郎君）** 洋上風力発電の件で、地元の方の声を少しお話ししたいと思います。私の自宅から車で30秒程度のところから、基礎の部分が見える場所に私もいるんですけども、地元でいえば、そこはひびき灘漁業協同組合本所でもありまして、脇田漁港がある位置に、そこは私の自宅からは少し離れているんですけども、拠点となるのが脇田漁港なんですけども、漁師、漁業従事者の方とのやり取りの中で、今、工事に当たって、音の問題ですとか工事の問題で近郊の建て網の魚がつかなくなったというふうなことも聞いていて、それがいいか悪いかは置いて、その代わりに今、九州電力さん等々関連会社から依頼を受けまして巡視艇を出しているんですね。巡視艇で約1年半の契約で、今、脇田にいる漁業従事者がその仕事に携わっているということなんですね。これが来年から開始して再生可能エネルギーの創出ということでやっていくんですけども、その一方で魚礁としても、恐らく、完成した1年半後には、今度それが魚礁となって魚が戻ってくるだろうという前向きな意見も言っていました。

また、その近くにある道の駅の店長との話なんですけれども、そちらも、地元の魚が入ってこなくて、今、漁がないものですから、少し大変だということはおっしゃっていました。その代わりに、北九州の市場もありますので、そこからの仕入れで補っているというふうな意見も聞きました。

さらに言えば、洋上風力発電も、エネルギーの創出とか雇用の創出もそうなんですけれども、観光としても今後、産業観光というところでもつながっていけばいいなと思っております。以上です。

**○委員長（吉田幸正君）** ありがとうございます。渡辺徹委員。

**○委員（渡辺徹君）** 先ほどの物流のことにも関連するんですが、北九州のポテンシャルといえば陸海空が本当に充実して、そして、北九州空港も3,000メートル化ということで、将来を見据えた動きをやっていただいているんですが、ただ、先ほどの、産業に戻りますが、結局そういったものがあっても、物自体の通過だけであれば、北九州に対しては空港とか港に対してのお金だけになると思うんで、物流拠点ということを考えれば、どれだけ集貨をするか。そのためにも港の強化、それと空港をターミナルから全部で総合的にやっていただかないと、すごいポ

テンシャルがあっても、それを生かせるものがないとですね。北九州にとにかく人が集まって潤うことがまず大事だと思いますので、そのために今いろんなことをやっていると思うんですね。特に、空港はそういう形で今うまくいっているんですが、物流拠点化というところで法整備もかなりやっていますけど、まだまだ見えてきていない部分がかかなりあります。そういう面では、他都市に比べていろんな実行性が遅いというところがあると思うので、我々の委員会ではそれを強く市と県と国に要望をしっかりとしいかないといけないと思います。

それと、港湾に関しては、私、議会でも言ったんですが、強じん化ということで、南海トラフがどうのとか地震がどうのということで、先ほども、護岸が壊れて150億円かかった。それだけ港湾事業というのは、修復するのに物すごくお金がかかるんですね。ですから、今しっかり、初期投資はかかるんでしょうけど、これだけ物流で潤っていただいている港にもう少し目を向けて強化していくということが大事だと思います。ただ稼いでくれているから、そればかりで終わるのではなくて、ちょこちょこ手直しするのではなくて総合的に考えて、そういう体系もつくっていますけど、やはりもう少しスピードアップしてやっていただかないと、将来が見えないというか、いろんな部門で皆さんも頑張っていて、観光にしろ何にしろ頑張っているんですが、その基になる産業、物流というところがまだちょっと生かされていないという気がして、それをここの委員会でしっかり話した中で県、国に伝えていくということが本当に大事だと思いますのでね。

今回、政変がありまして、与党としてはありますけど、野党の方もかなり増えて、そういう面では選択肢はいっぱいできたと思うので、政情不安がどうのこうのじゃなくて、それを逆手に取って、いろいろ話をしやすい環境ができたと思いますので、そういったところを総合的に、北九州のために、我々は北九州の議員ですから、北九州市民のためにそういったものをしっかり生かして、働く場、そして潤える場をつくっていききたいということで、知恵を絞っていききたいなと思っているんですけどね。ぜひ、そのためにも国のお金を、先ほど香月委員からもありましたけど、うまい具合にお金を使っていくことが大事じゃないかと思っていますので、その辺をよろしくお願いします。

**○委員長（吉田幸正君）** ありがとうございます。港湾事業は国の管轄が非常に大きいところがありますので、しっかり、政党問わず、日本の発展のための北九州の港湾でありますので、予算要求、要望をと思います。

また、今、政権は地方創生交付金というのをやりますという話ですが、これは人口割で配られるものではなくて、こちらが提案をして、その提案が通るかという事案でありますので、国の情報をしっかりと取って、これは行政が提出するものでありますから、我々の意見を、地元の意見をしっかりと吸い上げて、いい事業の提案につなげて、そして雇用と税収がしっかりとこの町に落ちるようにと思いますので、引き続き、いい提案をやっていくようにみんなで結集して頑張らしましょう。



それで、ほかになければ、次に、公営競技における一般財源及び地域への貢献についてを議題といたします。

御意見がありましたら、よろしくお願ひいたします。渡辺徹委員。

**○委員（渡辺徹君）** 公営競技局は、何といてもしっかりと稼いでいただいた上に、北九州に特に財源の確保もそうですし、地域貢献も手広くやっけていただいているんですが、我々も視察に行ったときに、競輪事業、競艇事業は頭打ちということで、大分減っているという言い方はされてきました。それでも、競輪でも1兆円、競艇でも2兆円の規模であるということですから。そのとき言っていたのは、SGと申しますか、大きな大会をどれだけ誘致するかでその年の税収も利益も変わってくるということをお話してましたんで、これもやはり、公営競技は小さい局ですから、しっかりその辺のところはやっていただいて、いろんな国とのつながり、事業者とのつながりというのは物すごくパイプを持っていますんで、引き続き我々もしっかりとサポートしていくべきだと思っています。

ただ、昔みたいなギャンブルでどうのって、そういったものを市が応援するのかということをおられる方もいらっしゃるんですが、その中で皆さん方に使う税収というのをしっかり北九州では生かしていただいていますということをお話しているんですけど、まだまだイメージ的にいろいろあり、地域貢献ということでいろんな手を使っていますんで、このまま努力して、うまい具合に続けていただければ一番いいんですけど、こればかりはちょっとギャンブルですから分かりませんので、そういう面では我々もサポートしていくべきとは感じています。

**○委員長（吉田幸正君）** ありがとうございます。ほかに御意見ありましたら。

公営競技局は今、50億円ぐらい一般財源に入ってきていますので、これは大変大きな財源があります。同時に、一般財源に入ってしまうと、それが何に使われたかが分からないということがありますので、皆さんからもよく御意見をいただいて、地域貢献につながっているということをしっかりPRする必要があるというお話だったと思います。最近、この事業はボートの収益でとか競輪のサポートでみたいな看板もよく見るようになってきました。また、このたびカップピアですかね、あそこに新しい設備、施設ができて、利用者の満足度も上げていくという取組と、また、ボールパークですかね、12億円ですか、子供たちにとっても遊ぶ場が若松にできると聞いています。公営競技、パブリックゲーミングの人気をどう上げていくかというのはなかなかいろんなアイデアがすぐには出てこないのかも分かりませんが、いずれにしても、あの施設が北九州市にあるということが北九州市にとってすごくメリットがあるということが広くPRされる必要があると思いますので、ここは引き続きしっかりと局に対して意見を申し上げていきたいと思いますというところだろうと思います。

御意見ありましたら。本田委員。

**○委員（本田一郎君）** 今、委員長がおっしゃられたように、私もせんだって、カップピアのり

ニューアルオープン、外向けの発売所で16億円をかけてリニューアルオープンしたんですけれども、それと、パーク化ということも今お話がありましたとおり、これは、ただ単にボートレースだけでそこにぎわいをつくる、遊ぶということではなくて、家族が楽しめるスペースになるわけですね。

そういったところを踏まえて、たまたま先日、私、北九州市内のホテル協議会というのがありまして、リーガロイヤルホテルの社長が、今会長なんですけれども、そこに呼ばれまして、20分間話してくれということで、北海岸の観光地化とか、あと組合の活動報告等々させていただいたんですけど、その際に質問の中で、観光地化をするに当たって、ボートレース場の近隣で交通の利便性がとても若松は悪いと。その際どうするんだというふうな質問があったんですけれども、ボートレース場は今4か所、来場者に向けて送迎バスを出しているんですよ。そういったことも踏まえて、公共交通機関の活用も含めて、いろんなことが一般財源の地域貢献に関して使っていけると思うんですよ。今後もし観光地化する中で、当然インバウンドのお客さんも入ってきますし、国内からも、今、観光強化していますので、北九州市に見えるお客さんが増えてくると思うんですね。その中で、私、ボートレースも一つのコースに組み込んで、シャトルバスですとか周遊バスの活用、観光地、先ほど出ました洋上風力も含めた産業観光も含めた部分で、ボートレース場に外国人の集客等もありなんじゃないかなと思います。集客して収益を増強して、それがさらに一般財源につながってきて、その財源でまた地域貢献に活用していくという、そういうふうなスキームが必要じゃないかとも思っておりますので、そういったところがうまく、ボートレース場の財源といっても永遠にあるかどうか分かりませんので、収益を上げる手段を増やしていけるようになればいいなとは思っております。以上です。

**○委員長（吉田幸正君）** ありがとうございます。観光地化、フランスなんかに行くと、ロンシャン競馬場に観光地としてみんなで行くということもありますし、競馬でいうと、大阪からこっちは、九州は北九州だけです。同時に、メディアドームが、去年、台湾からの旅行会社の人が来られて、こんなもの見たことないということで、実は来週の競輪祭に50名の台湾からの自転車のファンが旅行に来てくれるみたいな話もあって、恐らくそれがまたいい宣伝になるだろうと思っています。ボートも多分ほかの国じゃないんだろうと思いますので、とにかくここにしかないコンテンツをしっかりとPRしていくということと、それが地元の発展につながるということは非常にリンクする親和性の高い話だと思いますので、ぜひまた意見をお出しただいて、局に協議をさせていただいて、よろしくお願ひしたいと思います。

どこまで競技の収益自体が上がり続けるのかというのは我々では今は分からないところがあるかも知れませんが、いずれにしても、北九州市の発展には今非常に重要なポジションを占めていますので、情報収集に努めて、またいろんな方と協議しながら進めていきたいと思っておりますので、よろしくお願ひします。

それでは、奥村委員。

**○委員（奥村直樹君）** カップピアの話が出たんで、この間伺って感じたことで、ここで議論したときにも思っていたし、行ってなお感じたんですが、競艇場も競輪場もそうですけど、ターゲットをしっかりとしないといけないんじゃないかなと思ってですね。2階の個室、すごくすてきな空間ではありましたが、今の料金設定とか要件だと、夏の暑い時期なんかって誰でも入れて、一日いてあの料金ってなると、本来来ていただきたい方が入れなくなってしまったら仕方がないので、例えば、競艇に参加をした場合は値段が安くなるんですけど、例えばそれによって料金の設定、差が出るとか、そういうふうにしていかないと、本来来てほしい、高額で賭けていただく方に満足度をとった施設が、そうじゃない利用の仕方になってしまっただけじゃないと思います。この間の施設もそうですし、親子でのところとかもそうで、この施設は誰向けで、どういうふうにも思ってもらいたいのかみたいなことが、だんだん、今後充実するほど訳が分からなくなってしまっただけじゃないので、そこら辺をしっかりと考えて戦略を打っていただきたい。今、確かに予算があるんで、いろんなことができると思うんですけど、今後のことを考えれば、今のうちにもう少し明確に方向性を打ち出して戦略的にやっていただきたいなと思いましたので、局への要望、もし可能であればそういう話も含んでいただけたらなと思います。

**○委員長（吉田幸正君）** ありがとうございます。カップピアの値段が安いだらうという話がありました。僕もそう思います。それで、これは条例じゃなくて要綱の変更で多分できるんだらうと思いますので、動き始めた場合に、実際に混雑しているというか、席が取れないという状況が確認できれば、そこは値段の設定とターゲティングをやっていくべきだと思います。同時にメディアドーム、僕ら小倉ですからメディアドームなんですけど、あそこは競輪事業に資するために存在していたものを、要綱の変更で、地域経済の活性化、にぎわいづくりという言葉が入っただけで相当使い方が変わってくるという、これは大きな変化だと思うんですが、意外とできるということも今回よく分かりましたので、何か我々からの提案事でよりいい施設になる提案はできるんだらうと思います。新しくできたことについては、人数や利用状況の報告を求めるようにいたしますので、そこでまたいい議論をしていただけたらいいなと思います。

ウーバーをやるって言っていましたかね。食事の提供も、いろんなものがあるんですけど、若松区内のお店から取れるような仕組みの提案もこの委員会ですべてらせていただいていますので、あとあらゆる面をもって地元に貢献できる施設としていきましょう。

ほかにございましたら。高橋委員。

**○委員（高橋都君）** 補助事業ですね、今回もかなりされているところなんですけれども、毎年、一般会計にこれだけ入れているということはもちろんそうなんですけど、補助事業の申請というのがありましたよね。なかなかそれが固定というか、まだ皆さんには知られていないというのをすごく感じています。先日、私たちも視察に行きましたけども、そこでも多くの事業に貢献しているなというのを感じたんですけど、せつかくこれだけの利益が上がっているんであれば、もう少し広げていただいて、PRというのがもっともっと広がっていけばいいのかな

と思います。もちろん、ギャンブル依存症もしっかりと対策を取っていただいているということも  
ありますけども。その辺はまた今後も課題として持つべきかなと感じています。

**○委員長（吉田幸正君）** ありがとうございます。東京と六本木の日本ボート協会と競輪協会  
を視察させていただいたときに、すごくたくさん補助金を出されていて、中には、車椅子テ  
ニスでしたかね、長い期間支援しているという事業もありまして、ボートはたしか日本財団が  
窓口だったと思いますが。ですから、我々はやっぱり施設を持っている町ですから、分かりま  
せんけど、北九州案件ですと、多少のアドバンテージは認めてもらって、地元で迷惑かかる  
場面もやっぱり、交通渋滞とか、言われました依存症のこともありますので、そこはしっかり  
私どももPRをして、また、施設側からもいいPRができるように、今、割と上がってきたと  
ころもありましたけど、より、こういう補助がありますからどうぞエントリーされてください  
という活動は引き続き拡大を目指して頑張っていきましょう。いずれにしましても、いいPR  
をやり続けるということが重要だと思います。ありがとうございました。

ほかによろしいですか。

それでは、ほかになれば、次回は本日いただいた意見を踏まえて報告書の取りまとめを行  
いたいと思います。

以上で所管事務調査を終わります。

本日は以上で閉会いたします。

---

経済港湾委員会 委員長 吉田幸正 印